

2022 年 8 月 31 日

2021 年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 千葉ボラサポート

代表者・役職名 氏名 星 孝芳

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

令和元年台風 15 号、19 号による被災者のための災害復興支援活動

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

令和元年房総半島台風に被災し、9月10日に設立。南房総市社会福祉協議会や県外から支援に来た災害ボランティア団体と連携を取り主に屋根のブルーシート展張、補修を行ってきました。会員数約20名。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

台風被災から復興が進み、改修された家々が増える中、未だに雨漏りなどに悩まされる家もあります。被災により不自由を強いられた被災者に寄り添い、被災前の生活に少しでも近づけることが出来るように支援を行うことを目的としています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

被災から2年以上が経過し、台風被災時に屋根へ展張したブルーシートが劣化・飛散の恐れがあったため、主に南房総市内にて該当する家屋へのブルーシートの再展張や補修作業を行い、被災者が安心して住み続けられるように支援を行いました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

屋根補修 15 軒、実施 30 回、のべ 150 名で行いました。施工後は支援をあきらめていた被災者や建て替えを待つ家も安心して家に居住を継続することが可能になりました。常に被災者の声に耳を傾け最善の方法を模索し、支援活動を続けたことで、被災者との信頼関係が構築され、被災者の生活再建への一助を果たせたと思います。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

災害から3年が経とうとしている現在も復旧されていない家屋の見守りや支援・相談を行っています。また、他団体との連携維持にも努め、南房総市役所朝夷行政センターへ相談し、水道局と連携して給水訓練を図るなど、自らで行動し災害に備える日々を送っています。活動継続の為に人材や運営費も乏しく今後の活動は困難を極めますが、災害後に急増した休耕田への対策が避難経路の維持や地域住民との繋がりに役立つことから地域づくりボランティアを興し、休耕田の花畑化等に取り組みながら防災を呼び掛けています。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、「必ず」、別途、ご提供ください。

